

KAWASAKI Coastal Area News

川崎臨海部

Vol.19

川崎市
KAWASAKI CITY

臨海部国際戦略本部
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1
TEL 044-200-3634 FAX 044-200-3540
<http://www.king-skyfront.jp/>

—川崎の南端は世界の最先端—

2018年9月発行



～永い歴史と新たなビジョンで文化と人を繋ぐ～
進化を続ける川崎臨海部のパートナー



当たり前の日常を支えるために 京浜急行電鉄 ～大師線～

京浜急行電鉄の歴史の始まり

京浜急行電鉄の大師線は、京急川崎駅から川崎大師駅を經由して小島新田駅まで川崎市内のみを走る短い路線で、1899年に関東で初の電気で走る鉄道という歴史的な側面を持っている。当時、画期的だった電車は永い歴史の積み重ねの中で進化を遂げて、誰もが当たり前利用できる、川崎市の日常に溶け込んだ風景のひとつになった。

厳しさの中で積み重ねた経験は揺るぎない自信へ

赤色の電車の大師線に幼い頃から慣れ親しんでいた青年は、鉄道学校を経て1981年に京浜急行電鉄に入社した。川崎大師駅の笹川裕剛駅長は懐かしそうに目を細める。

「保育園に通うために小島新田から東門前まで毎日乗っていましたね。小学生の頃には鉄道マンになろうと決めていました。慣れ親しんだ京急を選んだのもごく自然のことだったように思います」

憧れの職業は地味なことの連続でもあった。お酒を飲まれたお客様が鉄道事故に巻き込まれないようにするための対応だったり、汚物の清掃だったり、安全で正確に、かつ清潔に運行するためのことにも従事する。日々、電車が運行するために夜勤が必要であることも入社して初めて知った。そして、今の時代には目にする事の無い切符切りも経験している。車掌になってさまざまな経験を積んできた笹川駅長は、穏やかな笑顔の中でも常に凛と



車内の様子を穏やかに見守る笹川裕剛駅長

日々変化を遂げていく町並みの中で、日常を何事もなく当たり前で過ごせるということ。地味なことかもしれないが、それがどれほど素晴らしく、感謝に満ち溢れることだと知る人はどれほどいるのだろう。

した雰囲気を感じさせている。それは、厳重なテロ対策の訓練も独自に行っている京浜急行電鉄が、安全に正確に「当たり前」として運行できるよう日々努力を重ねる中で自然と身についた勲章なのかもしれない。そんな厳しさの中に、お客様との暖かな触れ合いがある。

「大師線は片道約10分のローカル線のお客様との距離が近いのです。例えばご年配のお客様のICカード乗車券のチャージを手伝ってあげたり、新宿への行き方を丁寧に教えてあげたりすることができる。お客様と顔見知りになって親しく接している職員もいます」

背負った責任から生まれるささやかな誇り



真摯に想いを語る久保田啓之運転士

15年のキャリアを持つ久保田啓之運転士は、単純なルーティーンに見える毎日の運転の中で常に自身の技術の向上に挑んでいる。例えば乗車率や車両の癖を把握し適切にブレーキをかけ、正確に停止位置を合わせることは熟練した繊細な運転技術とお客様への配慮の精神も要求される。「簡単そうに見えることは実は簡単ではないし、止める、ということひとつとっても、日々の探求に終わりはないんです。それを淡々と続けてこれたことは、ささやかな誇りでもあります」

お客様の命をお預かりしているという意識は常に持っているという。笹川駅長、久保田運転士、お二人の言葉や所作からそれらを十分に感じることができる。

様々な人々に寄り添う大師線

初詣で賑わう川崎大師、年明けに国内の強豪馬を集めて行われる川崎記念。川崎市民や臨海部エリアで働く人々だけでなく、都心や地方から多くの人々が大師線を利用する。京浜急行電鉄は混雑する時期でも、安全に正確に運行させるために全力を尽くす。注目されるキングスカイフロントや工業地帯へのアクセスの一端を担う大師線は、大胆な変貌を遂げる川崎市の景色の中にあっても、かけがえのない「当たり前」を創り出すために凜として存在する。その「当たり前」の環境は技術の進歩によるところも当然あるのだが、笹川駅長はじめ、久保田運転士たちの永続的な努力と果てない探究心、そして深い愛情という普遍的な人間の力によってもたらされている。

京浜急行電鉄と川崎市がそれぞれに積み重ねてきた歴史が交差して、キングスカイフロントに代表されるように共に新たな未来に向かって並走を続けている。



創立70周年に川崎大師駅に建てられた京浜急行電鉄発祥の地記念碑

多様なライフスタイルに応える 川崎キングスカイフロント 東急REIホテル

現在の川崎駅周辺には工業地帯、労働者の街、というかつてのイメージはもうないだろう。駅周辺はクラシック音楽ホールや複数のシネマコンプレックス、大型ショッピングモールなどが立地する近代的な都市へと生まれ変わった。だが、川崎市の変貌はこれにとどまらない。キングスカイフロントに誕生した東急REIホテルはご存知だろうか。

殿町国際戦略拠点にホテルが誕生

キングスカイフロントは、健康・医療・福祉分野などの最先端の研究機関が集まり、イノベーションから新たな産業を生み出す国際的な拠点。旧自動車工場の広大な跡地で拠点形成が進んでいる。この川崎区殿町地区は多摩川を挟んだ対岸に羽田空港があり、空港への連絡道路整備が進んでいて東京五輪までの完成を目指す。空港までのアクセスは車でわずか10分。首都高速やアクアラインの入り口も隣接している。2018年6月。新たな地に川崎キングスカイフロント東急REIホテルは誕生した。

トランからは、羽田空港の美しい夜景を望むことができる。都心や観光地ではない場所にできたチャレンジングなホテル。準備段階の2017年10月、荒木茂穂支配人が就任した。

「異動のタイミングもあって、もしかしたら自分になるかもしれない、と思ってました。社内では、

ホテルのあり方について新たな挑戦

これまでの東急ホテルズにはない斬新なホテルは高級感と遊び心を併せ持ったデザインで、フロントのある1階は高い吹き抜けとアンティークなイメージで統一されたレストランやカフェバー、コミュニケーションスペースがあり、5階のレス



アンティークに統一されたホテルの美しいオブジェ

こんな何もないところに人は来ないだろうってささやかれていましたね。2年後の羽田空港への連絡道路ができるまでは大変な思いをするだろう、と」

鹿兒島出身の荒木支配人は大学卒業後の1年間をオーストラリアで過ごし、マリンスポーツとトライアスロンの魅力に取り憑かれた。その後、宮古島でダイビングとマリンスポーツのインストラクターになるべく入社したのが宮古島東急ホテル&リゾートだったという異色の経歴を持っている。以後、販売促進に従事する。積極的な人生を選択してきた荒木支配人は、チャレンジングな事業はむしろ歓迎するところだった。



異色の経歴を生かした経営に取り組む荒木茂穂支配人

「ビジネスでのご利用のお客様は平日に限られます。ですが、ここは新たに開発が進んでいる綺麗な街。空港やアクアラインへのアクセスもよく、みなとみらいも近い。まずは殿町や大師線沿いの地元の方々に新しい施設が誕生したことを知っていただくために、ランチビュッフェを1,000円にして情報を発信しました。すると60席のレストランが満席で2回転するという反響があって、毎日50名ほどのの方々をお断りするほどでした。以降、地元の方々だけでなく、千葉や埼玉からもいらっしゃるようになってますね」

荒木支配人はクイックな対応を要するビジネスのお客さまだけでなく、地元のお客さまや観光のお客さまを心から受け入れた温度感ある接客を従業員に求めた。結果、洗練されたデザインだけでなく、ホテル全体が温かみに包まれた楽しい空間になった。これは沖縄という観光立県で仕事をしてきた経験が大きいという。



積極的な貢献は未来のために

荒木支配人はただホテルの収益を上げるためだけでなく、川崎市が想いを込めて拠点形成してきたキングスカイフロントにいかに貢献するか、を考えている。

「研究施設などで働く優秀な能力を持った方々がキングスカイフロントに集まってきています。独創的な何かが生み出される出会いやコミュニケーションの場を提供する。それがこのキングスカイフロントの方々へお返ししなければならないことだと思います。また「映像のまちかわさき」や「音楽のまちかわさき」などアーティストやクリエイターの育成にも川崎市は情熱を注いでいる。例えばホテルでの演奏や撮影の提供など、アーティストやクリエイターの方々とのコラボレーションも積極的に行いたいですね。川崎市の想いに応えたい」

荒木支配人はかつて生活していた沖縄と川崎市はよく似ているのだという。沖縄の懐の深さや多様性は荒木支配人に多くの影響を与えた。育んできた能力をホテルという媒体を通して川崎市へ還元しているのは必然のように思えてならない。

2018年6月。川崎キングスカイフロント東急REIホテルは、工業地帯として永い歴史を歩んできた川崎市の未来を担う新たなパートナーとなった。

